

おすすめのえほん

『まよなかのゆうえんち』

ギデオン・ステラー/作 マリアキアラ・ディ・ジョルジョ/絵
BL出版 2022



真っ暗な森にぽっかり明るいゆうえんちと楽しそうな動物たちの姿が、なんとも幻想的。言葉のない絵本からは、読む人の心の声が聞こえそうです。お話を作って楽しみましょう。

(KI)

『あずきのあんちゃんずんちゃんきんちゃん』

とみなが まい/文 植垣 歩子/絵



出ましたあずきの3きょうだい。あんこになりたいあんちゃんと、だいずになりたいずんちゃんと、きままにくらしたいきんちゃんさ。それぞれ願いがあるけれど、うまくいくのかどうなのか、それは読んでのお楽しみ。

(MT)

『カピバラがやってきた』

アルフレド・ソデルギット /作 あみの まきこ/訳
岩崎書店 2022



ハンターに追われたカピバラたちは、水辺のニワトリ小屋にげこみました。平和に暮らしていたニワトリたちは、カピバラたちをやっかいものあつかいするのですが……。

(A)

『ふたなじま オニがはこんだ島』

松田 雅子 /文(再話) 中土佐町教育委員会 /文(再話)
三本 桂子 /絵 中土佐町教育委員会 2022



読み聞かせにも

中土佐町の久礼湾には、地元の浜を高波から守ってきた小さな島が二つ浮かんでいます。

伝説に残るこの島の由来が、土佐の方言と高知の作家さんの絵で味わい深く伝えられます。

(TY)

『どなたでもどうぞ! バレンタインさんのホテルのおはなし』

サム・シャーランド/作 ふくもと ゆきこ/訳 BL出版 2023



やってきたのは、初めてのトラのお客さん!! さあ、バレンタインさんと娘のエルシーはどうする? なにしろ、ここは「どなたでもどうぞ!」のみんな大好きなホテル・バレンタイン。

(KW)

おやさいむらシリーズ

『ごぼうせんせいのいそがしいいちにち』

植垣 歩子/著 佼成出版社 2023



ごぼうクリニックには おやさいのかんじゃさんがいっぱい来ます。ムズムズかゆいレタスさんの頭には、たくさんのあぶらむしが、ごぼうせんせいの出したおくすりとは?

(H)

『ぼくにはひみつがあります』

羽仁 進/作 堀内 誠一/絵 主婦の友社 2023



アパートの階段裏にいる不思議な可愛い動物のことは秘密なんだ。ぼくがこっそり世話をしていたら、増えて飛び始めた。これでは見つっちゃう。

50年ぶりの復活です。

(S)

『うさぎのさとうくんあさひ』

相野谷 由起/作 小学館 2022



カーテンの隙間で光っている細い光を、さとうくんは、そっとつまんだ。光のぼうで火をおこしたり、輝くきのこをつくったり。さとうくんワールドは、不思議で、あたたかい。

(KI)

『ブラディとトマ』

ふたりのおとこのこふたつの国それぞれの目にうつるもの』

シャルロット・ベリエール/文 フィリップ・ド・ケメテル/絵
ふしみ みさを/訳 BL出版 2022



遠い国からトマの家に来たブラディの一家。だけど、トマには訳が分からない。同じ言葉でも二人のイメージするものは全然違う。

こどもの目線から難民について一緒に考える絵本。

(K)

『おちびさんじゃないよ』

マヤ・マイヤーズ/文 ヘウオン・ユン/絵 まえざわ あきえ/訳
イマジネーション・プラス 2023



からだの小さな女の子テンちゃん。同じように小さい転校生のマルくんがいじめっ子にねらわれてる。テンちゃんはどうする？中身は大物、テンちゃんの行動にスカッとするよ。

(JY)

おすすめの物語



『がっこうかっぱの生まれた日』

山本 悦子/作 市居 みか/絵 童心社 2023



俺はかっぱ。名前のなかった俺にコケマルと付けてくれたのは、ちよだった。ある日俺の住む池へ靴を落として飛び込んで来たのがちよだ。ちよは毎日やって来て学校のことなんか教えてくれて楽しかった。でも、疎開していたちよに悲しい知らせが届く。俺は苦しくてずっと眠り続けた。そんな俺を起こしたのは。

(H)

『キダマッチ先生!』

今井 恭子/文 岡本順/絵 BL出版 2023



カエルのキダマッチ先生は森で評判のお医者さんです。誰でも診てくれて、すぐに治してくれます。毎日たくさんの患者がやって来ていたのですが、突然なくなりしました。新しくできたオコジョ病院に行ったようです。そこで先生は、病院の偵察をするために、歌いすぎて痛めたのを診てもらおうことにしました。

(S)

『バレエ団のねこピンキー』

ノエル・ストレットフィールド/作 スザンヌ・スーバ/絵
田中 潤子/訳 のら書店 2023



黒猫のピンキーはバレエ団のネコ。ネズミとりが仕事ですが、実はネズミがこわくてたまりません。ある日、リハーサル中の舞台上でネズミが走り、驚いたバレリーナが転んでけがをして、真っ先に逃げ出したピンキーは辞めさせられそうになります。ところが、泣いている代役のバレリーナを見つけたピンキーは…。

(N)

ホラー・クリッパー

『猿の手 = The Monkey's Paw』

ウィリアム・ワイマーク・ジェイコブズ 他/原作
富安 陽子/文 アン マサコ/絵 ポプラ社 2023

怖いお話の好きなあなたに!



3つの願いをかなえる魔法の「猿の手」を手に入れたホワイト一家。ホワイト氏が願いをかけたときからびた猿の手がよじれて…?

表題作「猿の手」のほか、「不思議な下宿人」「魔法の店」。英米の名作を富安陽子が再話。場面がくっきりと浮かび上がり恐怖の世界に誘います。

(JY)

齊藤 洋/作 ももろ/絵 講談社 2023



キュリオはいつだってへんなことをいうのだ。“キリンがつかのからはえたはっぱを食べるところをみにいこうよ”とか“さばくで走る柱とあったんだ”とか。今日のお誘いは“月の女王に会いにいかない？”。月の女王ってどこにいる？…

クマのベバと小さな男の子キュリオ、ふたりの新月の日の冒険。挿絵もたくさん。楽しく読めます。

(T)

『西の果ての白馬』

マイケル・モーパーゴ/作 ないとう ふみこ/訳
徳間書店 2023



イギリスのコーンウォール半島を舞台とする5つの短編集。表題『西の果ての白馬』は、破産寸前にまで落ち込んだベルーナ家が、子どもたちが出会った小人のノッカーに助けられる話である。貸してくれた白馬のおかげで、奇跡が起きる。

どのお話の中にもこの地方の妖精や言い伝えが生きている。作者の指示通り、ぜひ第一編からどうぞ。

(M)

『ブックキャット ネコのないしよの仕事!』

ポリー・フェイバー/作 クララ・ヴリアミー/絵 長友 恵子/訳
徳間書店 2023



黒ネコのモーガンは、戦争のさなかに駅のホームで生まれました。空襲が続くある日、母と妹を爆撃で亡くし、ひとりぼっちになってしまいます。なんとか生きのび、その後あるきっかけから出版社に住みついて“ブックキャット”として働くように…

いったいどんな仕事でしょう？ロンドンの町に実在した黒ネコがモデルのおはなしです。

(F)

『起業家フェリックスは12歳』

アンドリュー・ノリス/著 千葉 茂樹/訳
あすなろ書房 2023



フェリックスがお母さんに渡したバスカードは、親友モーのイラストを印刷したもの。それを見たおばあちゃんがとても気に入って、ロコミで大人気！ならばと、オンラインショップで販売することになり…ついに会社を立ち上げるまでに。

仲間との友情や家族の物語にハラハラドキドキ。その中でビジネスについても学べます。

(YO)

おすすめのその他のジャンル



『カムイの大地 北海道と松浦武四郎』

泉田 もと/作 岩崎書店 2023



幕末、当時えぞ地と呼ばれていた北の大地には、先住民アイヌの人々が暮らし、過酷な差別の中で独特の文化をもちカムイ(神)をまつっていた。その村々を歩き、交流を深め、記録を残し伝えた松浦武四郎の物語。後に北海道と名付けた人。

(O)

『カメラにうつらなかった真実』

3人の写真家が見た日系人収容所』

エリザベス・パートリッジ/文 ローレン・タマキ/絵
松波 佐知子/訳 徳間書店 2022



写真に映る眼差しは、静かに訴える

1942年2月、ローズヴェルト大統領は、西海岸に住む12万人以上の日系人の強制収容所収監を命じた。

立場も性別も全く違う3人の写真家が残した貴重な収容所の写真をもとに、日系アメリカ人の歴史を辿るノンフィクション。

(AK)

『マリー・キュリー』

デミ/作 さくま ゆみこ/訳 光村教育図書 2022



女性が科学者、物理学者として活躍するのが難しかった時代、熱心に研究してノーベル賞まで受賞したマリー・キュリー。いまの医学に役立っている研究のことを知り、ひとりの女性の生き方を考えることができます。

(N)

『ONE WORLDたったひとつの地球』

今この時間、世界では…』

ニコラ・デビス/作 ジェニ・デズモンド/絵
長友 恵子/訳 フレーベル館 2023



ロンドンでは、真夜中12時のかねがなっている。あなたは今なにをしている？アフリカでは？インドでは？わたしたちと地球を一周してみよう。それぞれの場所で、今なにがおきているのか、地球についてもっと知ることが大切だ。今日は、アースデー地球の日。

(YO)

『聞いて聞いて! 音と耳のはなし』

高津 修, 遠藤 義人/文 長崎 訓子/絵
福音館書店 2023



音はふるえる空気の波。高い音、低い音。聞こえる音、聞こえない音。左右の耳が聞きとる音のタイミングや大きさ、そのわずかなずれが、おくゆきや広がりのある風景をえがきだす。

オーディオの専門家が語る音の絵本。

(T)

『キリムからの手紙 願いを伝える遊牧民の布』

桐山 エツコ/作・絵 かがわ出版 2023

娘の幸せ! 豊かな実り! 流れる水を!



昨今、手仕事から生まれる物が、どんどん失われつつある。キリムという織物もしかり。ひとつひとつの絵柄や組み合わせに“祈り”を込めて、織り手はひたすら織る。その願いは世界共通だから、見る者の心を打つ。

(HF)

みんな国境をこえてつながっている

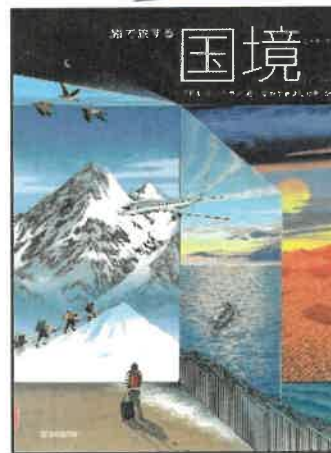
『絵で旅する国境』

クドル/文 ヘラン/絵
なかやま よしゆき/訳
文研出版 2022

国と国の間に引かれた目に見えない線、国境。こちら側と向こう側で、人々が毎日行き来する国もあれば、高い鉄柵で隔てられた国もある。そして、国境がなくなってしまった国も。

隣国韓国の二人が6年をかけて作った渾身の一冊。

(AK)



『ワザあり! 雑草の生き残り大作戦』

かしこく、たくましく進化しつづける』

保谷 彰彦/写真・文 誠文堂新光社 2023
(子供の科学サイエンスブックスNEXT)

観察ポイントがわかる



“雑草”って、やっかいですよね。踏まれたり掘り返されたりと、環境が激変する場所でも育ち・繁殖する手ごわい存在です。そのつわものたちが身につけている秘訣を、クローズアップ写真やイラストでわかりやすく解説してくれます。

(TY)

認定NPO法人高知こどもの図書館
選書委員会

